

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	シャーププライマーP-50
会社名	シャープ化学工業株式会社
住所	大阪府堺市西区築港浜寺西町 12-1
担当部門	品質保証部
電話番号	072-268-0321
制定・改訂	2022年5月17日

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体	区分 2
-------	------

健康に対する有害性

急性毒性（経口）	区分に該当しない
急性毒性（経皮）	区分に該当しない
急性毒性（吸入：ガス）	区分に該当しない
急性毒性（吸入：蒸気）	区分 4
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない
皮膚腐食性／皮膚刺激性	区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	区分 2
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	区分に該当しない
生殖細胞変異原性	区分に該当しない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
標的臓器／全身毒性（単回ばく露）	区分 3（気道刺激性、麻酔作用）
標的臓器／全身毒性（反復ばく露）	区分に該当しない
誤えん有害性	区分 1

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期（急性）	区分 3
水生環境有害性 長期（慢性）	区分 3
オゾン層への有害性	分類できない

GHSラベル要素

【絵表示またはシンボル】



【注意喚起語】

危険

【危険有害性情報】

引火性の高い液体及び蒸気
吸入すると有害
強い眼刺激
呼吸器への刺激のおそれ（気道刺激性）
眠気やめまいのおそれ（麻酔作用）
飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
長期継続的影響によって水生生物に有害

【注意書き】

《安全対策》

熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器を接地すること／アースをとること。
防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講じること。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
取扱い後は汚染箇所を石鹼等でよく洗うこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
環境への放出を避けること。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

《応急措置》

飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。
皮膚（又は髪）に付着した場合：汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを装着していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
気分が悪いときは医師に連絡すること。
無理に吐かせないこと。
眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当を受けること。
火災の場合：消火するために粉末ドライケミカル、乾燥砂、二酸化炭素、泡消火剤を使用すること。

《保管（貯蔵）》

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
施錠して保管すること。

《廃棄》

内容物／容器を法令に従って適切に廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混物の区分 混合物
 化学名又は一般名 溶剤型プライマー

成分及び濃度又は濃度範囲

成分	CAS NO.	含有率(%)	官報公示整理番号 (化審法)
酢酸エチル	141-78-6	35-45	2-726
メチルシクロヘキサン	108-87-2	15-25	2-6
炭酸ジメチル	616-38-6	10-20	2-542

4. 応急措置

吸入した場合	<p>空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で安静にさせる。 直ちに医師に連絡し、医師の手当、診断を受ける。 呼吸が止まっている場合、又は呼吸が弱い場合には衣類を緩め、呼吸 気道を確保したうえで人工呼吸（又は、酸素吸入）を行う。</p>
目に入った場合	<p>直ちに清浄な多量の水で最低 15 分間洗い流す。速やかに専門医の手 当てを受ける。 コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り 除いて洗浄する。</p>
皮膚に付着した場合	<p>多量の水と石鹸でよく洗う。 付着物を布にて拭き取る。 外観に変化が見られたり、かゆみや炎症がある場合には専門医の手当 てを受ける。</p>
飲み込んだ場合	<p>水で口の中を良く洗い、医師の診察を受ける。 無理に吐かせてはならない。 被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。</p>
急性症状及び遅発性症状の最 も重要な兆候症状	<p>吸入すると、咳、咽頭痛、し眠、頭痛、吐き気、意識喪失。皮膚に触 れると皮膚の乾燥、発赤。目に接触すると、初赤、痛み。飲み込むと 腹痛、咽頭痛、吐き気。</p>
応急措置をする者の保護 医師に対する特別注意事項	<p>火気に注意する。有機溶剤用の防毒マスクがあればそれを着用する。 情報なし</p>

5. 火災時の措置

使用可能消火剤	粉末ドライケミカル、乾燥砂、二酸化炭素、泡消火剤
使用してはならない消火剤	情報なし
火災時特有の危険有害性	火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。 極めて燃え易い、熱、火花、火災で容易に発火する。 加熱により容器が爆発するおそれがある。 引火性の高い蒸気
特有の消火方法	適切な保護具を着用する。 可燃性のものをすばやく周囲から取り除く。 指定の消火器を使用すること。 火災の現場に容器があると破裂する恐れがあるので、消火活動には十分に距離をとること。
消火を行なう者の保護	消火者は必ず適切な保護具を着用し空気呼吸器などを装備する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置	曝露防止のため、作業の際には適切な保護具を着用する。 付近の着火源、高温体および付近の可燃物をすばやく取除き、風下の人を避難させ、関係者以外の立ち入りを禁止する。 着火した場合の備えて適切な消火器を準備する。 回収作業においては、火花を発生しない材質の用具を用いて回収する。 密閉された場所に立ち入る前に換気をすること。
環境に対する注意事項	漏出液を下水や側溝等に流してはならない。 少量漏出の場合にはウエス等に吸収させて回収する。 大量漏出の場合、着火源を断ち蓋付きの容器に回収する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	危険でなければ漏れを止める。 乾燥砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できるから容器に回収する。 二次災害の防止策として、付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。

皮膚、粘膜、着衣に触れたり、目に入らないように適切な保護具を着用する。

局所排気・全体換気

局所排気装置、全体排気装置のある換気の良い場所で行う。

注意事項

密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置をつけ適切な保護具を着用して作業する。

取扱い後は手洗い等を十分に行ない、衣服に付着した場合は着替える。

保管条件

幼児の手の届かない所に置くこと。

直射日光を避ける。

火気、熱源から遠ざける。

40℃以上になるところには置かないこと。

8. ばく露防止及び保護措置

物質名	管理濃度	日本産業衛生学会	ACGIH
酢酸エチル	200ppm	200ppm	TLV-TWA 400ppm
メチルクロヘキサン	—	400ppm	TLV-TWA 400ppm

設備対策

取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものを置かないような設備とすること。

密閉場所で作業する場合には、排気装置を取り付けること。

防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講じること。

貯蔵ないし取り扱う作業場には洗顔器と安全シャワーを設置すること。

保護具

眼の保護

保護眼鏡を着用する。

皮膚の保護

不浸透性（ポリエチレン、ゴム製等）の手袋を着用する。

呼吸器系の保護

有機ガス用防毒、防塵マスクを着用する。

密閉された場所では送気マスクを着用する。

9. 物理的及び化学的性質

	内容物	
--	-----	--

物理状態	液体	
色	透明	
臭い	芳香臭	
融点	-84℃ (酢酸エチルとして) -126.6℃ (メチルロヘキサンとして) 2~4℃ (炭酸ジメチルとして)	
沸点	77.1℃ (酢酸エチルとして) 101℃ (メチルロヘキサンとして) 90℃ (炭酸ジメチルとして)	
可燃性	データなし	
爆発下限界及び爆発上限界	下限 1.2vol%、上限 12.9vol% (酢酸エチル、メチルロヘキサン、炭酸ジメチルとして)	
引火点	-6℃ (密閉式)	
自然発火点	427℃ (酢酸エチルとして)	
分解温度	データなし	
PH	データなし	
粘度	6~10mPa・s	
溶解度	有機溶剤に可溶	
n-オクタノール／水分配係数	Log Pow=0.73 (酢酸エチルとして)	
蒸気圧	10kPa (20℃) (酢酸エチルとして) 5.73kPa (25℃) (メチルロヘキサンとして) 30kPa (50℃) (炭酸ジメチルとして)	
密度	0.96	
相対ガス密度	データなし	
粒子特性	データなし	
その他	データなし	

10. 安定性及び反応性

反応性	引火性である
安定性	通常の手扱い条件では安定
危険有害反応性	引火性である
避けるべき条件	火気、熱源を避ける
危険有害な分解生成物	火災時の燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素などの有害ガスが発生する。
混触危険物質	酸、強酸、塩基、強塩基

1 1. 有害性情報

急性毒性（経口）	酢酸エチル	LD50 4940mg/kg
	メチルシクロヘキサン	LD50 1200mg/kg
急性毒性（経皮）	酢酸エチル	LD50 >18000mg/kg
	メチルシクロヘキサン	LD50 86700mg/kg
急性毒性（吸入：蒸気）	酢酸エチル	LC50 14640ppm
	メチルシクロヘキサン	LC50 7082ppm
急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	酢酸エチル	分類できない
	メチルシクロヘキサン	分類できない
皮膚腐食性/皮膚刺激性	酢酸エチル	区分に該当しない
	メチルシクロヘキサン	区分 3
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	酢酸エチル	区分 2B
	メチルシクロヘキサン	区分 2B
呼吸器感作性または皮膚感作性	酢酸エチル	呼吸器感作性：分類できない 皮膚感作性：区分に該当しない
	メチルシクロヘキサン	呼吸器感作性：分類できない 皮膚感作性：分類できない
生殖細胞変異原性	酢酸エチル	区分に該当しない
	メチルシクロヘキサン	分類できない
発がん性	酢酸エチル	分類できない
	メチルシクロヘキサン	分類できない
生殖毒性	酢酸エチル	分類できない
	メチルシクロヘキサン	分類できない
特定標的臓器/全身毒性（単回ばく露）	酢酸エチル	区分 3（気道刺激性、麻酔作用）
	メチルシクロヘキサン	区分 3（麻酔作用）
特定標的臓器/全身毒性（反復ばく露）	酢酸エチル	分類できない
	メチルシクロヘキサン	分類できない
誤えん有害性	酢酸エチル	分類できない
	メチルシクロヘキサン	区分 1

船舶安全法	引火性液体類
航空法	引火性液体類
海洋汚染防止法	有害液体物質 Y類：メチルシクロヘキサン Z類：酢酸エチル
化学物質管理促進法	該当しない
毒物及び劇物取締法	該当しない

16. その他の情報

記載内容については現時点で入手した資料に基づいて作成しておりますが、記載のデータ及び評価については必ずしも十分ではありませんので、取り扱いには注意してください。なお、記載内容は情報提供であって、保証するものではありません。

ホルムアルデヒド放散量区分：（日本シーリング材工業会）室内空気汚染対策のための
自主管理規定
J S I A—0 0 8 0 2 4 F☆☆☆☆